

中区のまちづくりの方向性（修正案）について

令和元年7月6日 中区まちづくり懇談会

中区の特徴

【現況】

- 昼間人口が夜間人口の約1.7倍
- 単身世帯の割合が5割以上
- 65歳以上の高齢者人口が、8区中2番目に少ない(22.8%)
- 15歳未満の年少人口が、8区中一番少ない(10.5%)
- サービス業など第3次産業就業者が就業者全体の約7割以上

【地域資源】

- ① 潤いのにぎわいをもたらす公共空間
- ・水の都のシンボルとなる水辺と河岸緑地
 - ・中央公園、平和大通りなど大規模な公園・緑地
 - ・旧広島市民球場跡地
 - ・アリスガーデン、東新天地公共広場、袋町公園
 - ・江波山

- ② 歴史的・文化的資源
- ・広島城跡、縮景園、頼山陽居室、世界平和記念聖堂、雁木、西国街道などの歴史的資源
 - ・平和のシンボルである原爆ドームと平和記念公園
 - ・路面電車
 - ・旧日本銀行広島支店

- ③ 伝統的なお祭りやにぎわいを生むイベント
- ・とうかさ、えびす講、とうろう流し、江波の漕伝馬
 - ・フラワーフェスティバル、ドリミネーション、南の風EBAあそび、広島仏だん通り祭

- ④ 中四国随一の都市機能
- ・業務・商業・文化・国際交流などの都心型機能の集積
 - ・中四国一の歓楽街流川薬研堀
 - ・整備された公共交通網
 - ・「都市再生緊急整備地域」に指定された紙屋町・八丁堀地区(161ha)の再開発
 - ・紙屋町・八丁堀地区のエリアマネジメント
 - ・平和大通りなど公共空間を活用したにぎわいづくり
 - ・「知の拠点」再生プロジェクト(広島大学旧理学部1号館とその周辺)

【地域課題】

- (住・生活環境)
- ・地域の商店が減っている
 - ・空き家、空き地が増えてきた
- (高齢者)
- ・一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増えてきた
- (地域活動)
- ・地域活動の担い手が不足している
 - ・町内会に入っている人が少なくなった
 - ・地域の中で世代を超えた交流がない
 - ・新しいマンションの住民が増えてきているが、交流がない

目指すべきまちの将来像

① ヒト・モノ・カネ・

情報が行き交う

にぎわいのあるまち

② 自然と歴史・文化が

息づくうるおいのある

まち

③ 健康で快適に暮ら

せるまち

④ コミュニティを

育むまち

⑤ 安全・安心に

暮らせるまち

中区の魅力を高めるまちづくりの方向性

(1) 都心にふさわしいにぎわいを創るまちづくり

様々な目的の来訪者を受け入れるためのもてなし活動や、都心の魅力を生かしたイベントの開催など、多くの人が集う活力あるまちづくりを進める。

【背景】

中区には、本市の都心として商業・業務・行政などの多様な都市機能が集積しており、ビジネス、買物、観光など様々な目的の来訪者が訪れてくる。こうした来訪者を受け入れるためのもてなし活動や、都心の魅力を積極的にアピールしたイベントのほか、住民や企業などによるエリアマネジメントの取組など、地域特性を生かしたにぎわいのあるまちづくりを推進する必要がある。

(2) 自然と歴史・文化的資源を生かしたまちづくり

身近な自然に親しみ、守り育てる活動を進めるとともに、歴史・文化的資源を活用し、個性的で魅力あるまちづくりを進める。

【背景】

中区は川や海の自然に恵まれ、河岸緑地や親水緑地など水に親しむことのできる環境が整備されており、また、広島城跡や縮景園などの歴史、文化的資源がある。こうした身近な地域資源を活用し、個性と魅力のあるまちづくりを進める必要がある。

(3) 互いに尊重し、地域で支え合い、多様な住民が健康で快適に暮らせるまちづくり

住民がその人らしい役割を担って、お互いに支え合う体制づくりに取り組み、高齢者や子ども、障害者など多様な住民が健康で快適に暮らせるまちづくりを進める。

【背景】

一人暮らしの高齢者や子育てに孤立感を感じている親が増加するなど、地域支援のニーズが高まっていることから、行政と地域住民が連携し、互いに人格を尊重し支え合う体制づくりに取り組むとともに、障害者が自立して生活できるような社会のバリアフリー化を推進するなど、地域共生社会の実現を目指す必要がある。

(4) 地域コミュニティを育むまちづくり

地域課題の解決や、まちの活性化に向けて、住む人・働く人・学ぶ人など様々な人々が交流し、地域コミュニティや市民活動を活性化させるまちづくりを進める。

【背景】

中区は近年、マンションの建設が進み、人口、世帯数は増加しているが、一世帯当たりの人員は減少し、町内会・自治会の加入率が低下するなどにより、コミュニティが弱体化する傾向にある。一方、区内には企業も多く、様々な国籍の外国人が住んでいることから、地域住民、外国人、企業等の交流・連携を図りながら、地域の活力の維持・向上に向けた持続的なまちづくりに取り組む必要がある。

(5) 災害に強く、犯罪や事故の起こりにくい安心・安全なまちづくり

住民自らの防犯・防災意識を高めるとともに、地域と行政が一体となり地域の防犯・防災力の強化に取り組むまちづくりを進める。

【背景】

近年は、一人暮らしの高齢者を狙った特殊詐欺被害や、異常気象に起因する自然災害が多く発生している。こうした犯罪や災害に対して、「自分たちのまちは、自分たちで創り、守る。」との理念のもと、市民・企業・行政が協働してそれぞれの役割を担いながら、これらの減少に向けた取組をより一層進める必要がある。